

## ピアノ アドバイザー



### 小倉 郁子

宇都宮出身。

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て宇都宮短期大学卒業。同研究科2年課程修了。  
久保田恵子・仲山笑子、賀集裕子、権藤譲子、ジョセフ・パノウエツの各氏に師事。

1989年より3度の渡米にてバスティンメソードの創始者ジェーン・バスティン女氏に指導を受ける。2005年よりバスティンメソード指導講師として、全国のピアノ指導者育成のため秋田から沖縄まで23県1都1府でセミナー開催。その数176回になる。また2020年からオンラインセミナー開催。(4回)

2007年よりピティナ ステップ課題曲選定委員(12年間)、運営委員(2年間)を務める。

1977年 ひよこの会発足(現グループ飛翔)

1992年 宇都宮教材研究会発足(現宇都宮バスティン研究会)

1997年 柿の木幼稚園音楽教室開校

2003年 “ピアノ教育は人づくり”をモットーに保護者対象の「学ぶ会」発足。以来15年間に保護者勉強会を45回開催。

2009年 クリスタルステーション in 宇都宮発足。ピティナピアノステップを11回開催。

2013年 日本バッハコンクール実行委員会発足。バッハコンクールを7回開催。

ピティナピアノコンペティション全国決勝大会審査員、日本バッハコンクール全国大会審査員、ブルグミュラーコンクールファイナル審査員長、栃木県ピアノコンクール本選審査員、ショパン国際ピアノコンクール in ASIA、全日本クラシックコンクール審査員。

ピティナ指導者賞(27回)、栃木県ピアノコンクール指導者賞受賞。

現在、宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員・バスティンメソード指導講師・宇都宮バスティン研究会代表・クリスタルステーション in 宇都宮代表・グループ飛翔主宰・柿の木幼稚園音楽教室代表・日本バッハコンクール実行委員会代表。

## ホールでの演奏を楽しむために



### はじめに

今日、発表会やコンクールなどでホールでの演奏を聴く経験は数多くあると思います。同じピアノでも「なぜ響きが違うのだろう・・・」と感じたことはありませんか。なぜでしょうか… 少しでも良い響きを奏でるためのヒントになれば幸いです。

### 1. 手のフォームを安定させて

音を出すという行為そのものが打鍵です。打鍵は指先の使い方  
で音色を変えることができます。

自由自在に指を動かすために、  
また多彩な音色を奏でられるように  
ピアノを弾く手を作りましょう。



まず親指の第2関節と他の4本の指の第3関節を出して、アーチ状の手を作ります。全ての指の第1関節も立てて下さいね。

腕の重みをしっかりと支えられるように手のフォームを安定させましょう。

## 2. 姿勢も大切

坐骨の上に上半身がしっかり乗っていることを意識して、鍵盤に対し指先から肘までの高さが同じになるように座りましょう。

往々にして手首や肘が鍵盤の高さより低い人が見受けられます。一度確認をしてみてくださいね。

ピアノは鍵盤の先にある弦から音が鳴ります。遠隔操作をしている感じ。背筋を伸ばして遠くで鳴る音を受けとめて下さい。

姿勢を良くすると響きが良く聴こえてきますよ！



### 3. 広い空間を制して

普段練習している部屋とホールでは広さや天井の高さも違いますね。広さを感じてポーンと音を出してみてください。音が響いて座席の一番後ろまで、または天井まで届きましたか？エイ！と力任せに音を出したときと、身体をリラックスして指先に集中して打鍵したときは響きが違います。試してみてください。

理想的な打鍵ができた時は音と音の間の響き(余韻)が聴こえてきます。響きと対話が出来ますよ。ホールで演奏する時の醍醐味です。

### 終わりに

ホールでの演奏経験はホールでしか出来ません。ですから貴重なチャンスを有効にするために、しっかりと準備をして臨みましょう。椅子に座ったら姿勢や打鍵に気を配り、自分の音と向き合しましょう。そしてその響きを身体で会得しましょう。そのためには日頃からの探究心が必要です。限られた時間内でのホール演奏です。常日頃の響きに対するポイントを確認する習慣があなたを成長させます。

ホールという空間はその努力の成果を何倍にも膨らませてくれる魅力的な空間です。

ホールでの演奏は日頃の取り組みの集大成です。是非お楽しみ下さい。

